

目指す学校像	力がつく学校 力のある学校 感動いっぱい 与野南中 ～生徒・教職員・保護者・地域～
--------	---

重点目標	1 基盤となる生活面の安定と学力の向上 2 安心・安全の保障と学校事故の防止 3 コミュニティスクールの活性化とスクールコミュニティの構築 4 教職員の資質の向上
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>● 現状 多くの生徒に落ち着きが見られ、問題行動はほとんどない。地域・家庭の教育力もあって、見守り・見守られ意識が高い。第4週まで19日の内、9日以上欠席者は13名。学年が進むほど休みがちな生徒が多くなる傾向にある。ICT活用によりほぼすべての生徒が自分の考えを表明し、話し合い活動に積極的である。学習状況調査によれば知識面の強さが指摘できる。正解主義の傾向は強いようだが、考えたり表現したりすることにも積極的である。</p> <p>● 課題 既習事項を活用して思考を深めさせ、その外化のあり方の工夫と機会を増やすこと。「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学び」の研究を進捗させること。鍵となるのは読解上の要約、読み取りからの思考、理由の説明・解析の為の語彙力、さらに外化の際の表現力の向上である。基礎・基本の徹底と学び方の学びの両立もまた課題である。</p>	生徒指導の充実	① 安全・安心の下で発言できる雰囲気醸成するため、学級で話し合い活動を実施する。併せて教科における話し合い活動を充実させ、目的意識と当事者意識をもった思考、活動を経験させる。 ② 時間・時期を意識した生徒指導を行うために、学級経営案を作成し、指導について定期的な検証を行う。 ③ 生徒指導の充実のため、生徒指導委員会と教育相談委員会は計画的に活動し、組織的な対応を行う。	① 協働的な学びとしての話し合い活動を5教科で単元内3本以上と学級活動で月1本実施。 ② 学級経営の状況について毎学期末に学年職員で検証を行ったか。 ③ 生徒指導委員会と教育相談部会は中心・指導的な立場で活動ができたか。 ④ 総合的に～学校評価において、生活面についての問いに対して生徒90%、保護者85%の肯定的回答。生徒指導について教職員から80%の肯定的回答。	① 各教科が研究との関連でその大切さを理解し単元内で展開したほか、学級活動でも月1回以上話し合い活動を実施した。(A) ② 学級経営の状況は月1回以上の学年会内で検証されている。(B) ③ 生徒指導委員会と教育相談部会が中心・指導的な立場で活動し学年・学校経営に大いに資するところとなった。(A) ④ 生活面の問いに生徒95%、保護者90%の肯定的回答、生徒指導について教職員80%の肯定的回答。(A)	A	① 相互評価を「協働的な学び」の中核となるので継続的研究を進める。 ② 観察から生徒の実情を把握、経験や助言から分析、対応方法を決定するような学級経営案を、年度の前半・後期2回書く方向で計画。 ③ 生徒指導委員会と教育相談部会を中心に指導的な立場で活動させ、特別支援の知見を付加。 ☆ 学習指導のベースとしての生徒指導という考え方を徹底。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
2	<p>● 現状 毎月の安全点検より施設・設備の安全点検を遺漏なく行い、迅速な修理にあたっている。体罰・暴言・不適切な指導の発生は昨年度はなかったが、指導にあたっての教職員の言動について保護者からの指摘が4件あった。金銭事故の発生はなかったが、PTA等による寄付の申請への対応が不十分であった。SNSに関わる生徒指導が2件発生した。</p> <p>● 課題 教職員の安全に対する意識は高いが、詰めの甘さが感じられるときがある。SNSについては多くの者が安全意識を高く持っているが、油断なく対応する必要がある。</p>	教職員の安全に対する意識の向上と実践	① 会計事故防止のため、学年と部活動会計で、校長自作の処理プログラムを使用し、監査も定例化する。 ② 安全点検を定期的実施し、併せて管理訪問型の点検を定例化する。 ③ ハラスメント防止と不適切指導未然防止のための研修会を実施する。	① 会計事故の未然防止を具体的に言い、遺漏なく監査報告に至ったか。 ② 月に1回の安全点検と学期に1回の管理訪問型の点検を行えたか。問題箇所への即応をしたか。 ③ 職員会議等の機会にハラスメント防止のための研修会を実施したか。	① 監査報告は各学期に実施。(B) ② 月に1回の安全点検実施。学期に1回の管理訪問型の点検3学期は未了。問題箇所への即応。(B) ③ 職員会議・職員集会でハラスメント防止のための話をした。特にマタハラには留意している。(B)	B	① 学年会計は管理下に常に置かれているが、部活動会計は部ごとに時期が異なる点に留意。 ② 毎月の安全点検実施と学期末の管理訪問型点検を継続実施。 ③ ハラスメント防止と不適切指導未然防止のための研修会を継続実施。	
		生徒を取り巻く環境の安心・安全の確保	① 特にSNS等に関わる生徒指導の未然防止のために、警察主導の安全教室に加え、弁護士招聘によるSNS安全教室を実施する。 ② いじめ等の未然防止のために、必要に応じた全校集会や学校だよりによる情報発信や即時対応を行う。	① 警察主導の安全教室と弁護士を招聘してのSNS安全教室を実施したか。問題発生時に直ちに対応したか。 ② 多文化共生を意識した「いじめ防止」に取り組み、周知・徹底したか。突発的事象にも集即座に対応したか。案件の超越は防ぐことができたか。	① 警察主導の安全教室実施。弁護士招聘のSNS安全教室を実施。大きな問題発生はないが即応体制は整えている。(B) ② いじめ防止の記事を6月号学校だよりに掲載。突発的な事象に生徒指導主任主導の元で学年教員が集会による指導実施。個々の案件にも対応。(B)	B	① 警察主導の安全教室と弁護士を招聘してのSNS安全教室を継続的に実施。発生時の即応体制強化。 ② いじめ防止記事の掲載は継続。個々の案件への即座体制も維持。 ☆ 「多文化共生」をキーワード化。	
3	<p>● 現状 学校運営協議会立ち上げ後4年目を迎えた。ウィズコロナの時代を迎えて、生徒が地域で活躍する場面も多くなることの期待は大きい。また、PTAや講演会、育成会からの応援や肯定的な声も多く聞かれる。学校からの情報発信にホームページが有効ではあるが、ICT等の活用も求められている。</p> <p>● 課題 限られた回数での学校運営協議会の中での、理想の生徒像や地域についての十分な熟議。実際の学校を実際に目にする機会を多く設け、地域・学校間交流の活性化。</p>	開かれた学校づくりに関する取組	① 地域の方々からの学校理解を深め、関りを多くするために、新たな取組を創出する。 ② 学校教育の一貫性を担保するために中学校区小学校との連携を強化する。 ③ 学校だよりの学校からの情報発信を積極的に行う。	① 学校運営協議会の前に十分な準備を行い、熟議が深まるようにしたか。地域対象給食試食会と授業参観を実施できたか。地域清掃活動、大学との交流を企画・実施できたか。 ② 児童の把握のための兼務教員派遣と中学校紹介ができたか。校区4校校長会を定例化できたか。 ③ 研究発表と連携の「保護者部会」「地域部会」を実施できたか。 ④ 総合的に～学校からの情報発信について保護者・地域70%、小学校3校から肯定的回答	① 学校運営協議会前に校長が生徒役員との話し合い、学校運営協議会につなげる工夫をした。地域対象の給食試食会、民生委員・主任児童委員連絡会初開催。埼玉大学1年生との交流を実施。(A) ② 3小学校に兼務教員を派遣、児童把握に努め中学校を紹介。校区4校校長会を定例的に実施。(B) ③ 研究発表と連携の「保護者部会」「地域部会」を実施。(B) ④ 保護者から肯定的回答は多く寄せられているが地域については未実施。(B)	B	① 学校運営協議会と生徒会の直接的結びつけを図ること。地域対象の給食試食会は継続。民生委員・主任児童委員連絡会、大学との交流継続。地域清掃活動のあり方模索を継続。 ② 児童の把握のための兼務教員派遣と中学校紹介は継続。校区4校校長会を継続、会場の周り持ちを検討。 ③ ホームページの定期的更新。理想の学校像の紹介は継続的に模索。 ☆ 研究発表と連携の「保護者部会」「地域部会」を次回以降の発表時にも実施の方向で検討。	
4	<p>● 現状 市委嘱の研究「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学び」に2年間取り組んできたが、今年度本発表を迎える。校内の研究推進テーマは「ICTを効果的に活用した、個別最適な学びと協働的な学びに関する指導方法の研究」としたが、GIGA端末の利用を考慮しつつ、変化の大きい時代に生徒が適応可能となる「探究的な学び」も含めた授業力アップに学校を挙げて取り組むことが求められている。教員の在籍時間数はICT利用により減少した。多忙感には相変わらずであるが、多くの教職員は職場環境絵を肯定的に受け止めている。</p> <p>● 課題 「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学び」の本発表に向けた取組強化。ICTの活用と、「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」の基本的な考えを活かした教職員のキャリアアップ。教職員の計画年休取得。</p>	教職員の資質の向上に関する取組	① 研究の中間まとめを行うために、個別最適化に向けた計画的な授業実践を行う。 市教委、校区小学校、他中学校等、外部機関等との連携による研究体制整備を行う。 ② 各教員に「専門教科に加えもう一本の強み」を作るために、研修会を組織しベテラン教員が指導にあたる。 ③ 疲労回復と視野を広げるための機会とするために、計画年休の取得を促進する。 ④ デジタルに関するスキルアップのために、エバンジェリストを中心とした活動を様々な場面に設ける。	① 教科部会を月1回開いたか。「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」に関わる「新たな授業スタイル」「生徒の観察・経験値の織り込み・実施方法の決定・実行」のループ」「学習内容と学習方法」「自己評価と相互評価に基づくメタ認知」を意識した授業が実施できたか。 ② 研修履歴を確認しながら、個々の教員がキャリアアップできるようなアドバイスができたか。 ③ 学年内で話し合い、計画的な年休取得とその間の体験の共有を行えたか。はたらき方改革の取り組みについて、地域・保護者に情報を発信したか。積極的なコミュニケーションによる危機等の早期発見と対応をしたか ④ ICT活用アンケートで85%以上の肯定的回答が得られたか。	① 敢えて統一した日程は組まなかったが研究に開くための教科部会が必要に応じて開催した。「新たな授業スタイル」は「自由進度学習」として提案。「生徒の観察と教員の経験値の織り込み」から計画的に授業は勧められた。「自己評価と相互評価」に基づくメタ認知を今後に残す。(B) ② 教員へキャリアアップを図る助言は自己評価シートに基づく面談時に話すにとどまった。一定のアドバイスは行ったと認識している。(B) ③ 計画的年休取得は不十分。労働時間短縮は実感。はたらき方改革の取り組みについて、話題として取り上げ、地域・保護者への情報発信をした。積極的なコミュニケーションによる危機等の早期発見と対応は概ね実施できている。(B) ④ ICTは全生徒も教職員も積極的に活用。85%以上の肯定的回答。(A)	B	① 「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」を継続的な課題として来年度以降も実施。「新たな授業スタイル」を教員の経験値考えながら発展的に実行する。「学習内容と学習方法」「自己評価と相互評価」「精緻化」「メタ認知」を軸に「探究的な学び」を創造。「直接体験」を主としGIGA端末を適切に使用。 ② 若手教員に向けた研修会(ゼミ)を組織し、学びの機会を増加。 ③ はたらき方に工夫を加えて計画年休取得をこれまで通りに促進。 ④ エバンジェリストを中心にGIGA端末研修を計画・実施。 ☆ 他校の知見も容れてマネジメント面でのGIGA端末活用を推進。	

